

ベトナムで消化器がんの死亡率改善を目指した腸管減圧医療機器の普及

- ①ベトナムでは、腹腔鏡や内視鏡を用いた消化器がん治療の進展が目ざましい。一方で腸閉塞を伴うような進行した症例に対しては、準備が不十分な緊急手術となることが多く、術後死亡率が高いことが課題である。
- ②病状が進行した消化器がん症例に対して、腸管減圧を用いて術後死亡率を改善させることを目的とする。
- ③聖隷浜松病院はこの2年間でベトナム国家大学と協力して、腸管減圧機器の適切な使用方法と専門的管理、手術に関する研修を行い、ベトナム南部で8名の専門医を育成し、3施設を専門施設として認定してきた。今年度は、ベトナム人医師の長期研修、指導範囲を学生、技術者、看護師まで広げ、患者支援まで見据えた包括的な普及活動を展開する。さらに南部の消化管減圧ネットワークをベトナム中部、北部まで拡大する。
- ④本事業の研修を通じて、腸管減圧の医療機器を用いた新しい治療戦略を立案できるベトナム人医師を育成する。進行した消化器がんに対して、これらの医療機器の必要性和有用性を伝播することで、2026年を目標にベトナムでの腸管減圧全土で医療機器の販売網を拡大し、消化器がんの術後死亡率の半減を目指す。

